

(1) 2015.9.9 (毎週水曜日発行)

高齢者住宅新聞

平成19年9月19日第三種郵便物認可

第365号

# 週刊 高齢者住宅新聞

2015年(平成27年) 9月9日

Elderly Press Newspaper  
エルダリープレス ニュースペーパー

(毎週水曜日発行)  
第365号

(株) 高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15  
TEL.03-3543-6852(編集部) <http://koureisha-jutaku.com>  
発行人 西岡一紀 年間購読料 21,600円(送料込・税込)

# 既存店舗の在宅機能強化

薬樹

## 地域の状況踏まえリニューアル

首都圏で調剤薬局144店舗（2015年8月31日現在）を展開する薬樹（神奈川県大和市）は7月、川崎市内の「健ナビ薬樹薬局 鹿島田」の在宅機能を強化し、リニューアルオープンした。健康づくり支援のサービスと在宅医療の機能を兼ね備えた本社における最先端の薬局として今後の取り組みが注目されている。



調剤グループ在宅チーム永瀬 航マネジャー

薬樹は、正確・安全・置き、嚥下が困難な患者スपीディーな調剤を標榜する「薬樹薬局」のほか、在宅特化型の「訪問薬樹薬局」、地域住民の健康なライフスタイルをサポートする「健ナビ薬樹薬局」、心と身体のみならず地球の健康も含めた生活を提案する「スロースタイル薬樹薬局」の4ブランドで店舗展開をしている。

近隣他店舗と連携しながら在宅医療を推進している。また、管理栄養士の配置にも積極的な同社では全144店の内、約2割の店舗で栄養指導を実施。鹿島田の店舗でも管理栄養士が職能を発揮している。高齢化の進行による在宅療養者の急増や社会の健康意識の高まりを受け、医師から栄養指導を依頼されるケースは増加している。管理栄養士は、肥満解消やコレステロール値・血糖値を下げるための食事療法などで外来患者にかかわり、嚥下機能が低下した高齢者など在宅患者に対しては訪問栄養指導を行う。外来・在宅を問わず薬剤師と管理栄養士が協力して患者にかかわることが同社の考える医療の形だ。

### 予防から在宅まで管理栄養士も活躍

「健ナビ薬樹薬局」ブランド第1号店として2009年に開局した「健ナビ薬樹薬局 鹿島田」は、これまで地域住民の健康に貢献するため予防に特に力を入れてきた。薬師・管理栄養士による内臓脂肪の増加し、生活習慣病およびその予備軍を対象とした健康面のコンサルティングサービスでは、体成分



▲在宅機能を持たせリニューアルオープンした「健ナビ薬樹薬局 鹿島田」



▲投薬コーナーは患者ごとに仕切り、プライバシーに配慮。薬樹全店共通の取り組みだ

は、これまで地域住民の健康に貢献するため予防に特に力を入れてきた。薬師・管理栄養士が協力して患者にかかわることが同社の考える医療の形だ。予防から在宅まで管理栄養士も活躍

「健ナビ薬樹薬局」ブランド第1号店として2009年に開局した「健ナビ薬樹薬局 鹿島田」は、これまで地域住民の健康に貢献するため予防に特に力を入れてきた。薬師・管理栄養士が協力して患者にかかわることが同社の考える医療の形だ。予防から在宅まで管理栄養士も活躍



▲処方箋を持たない人の来局も多いことから、一般用医薬品やサプリメントの売上も多い

また、管理栄養士の配置にも積極的な同社では全144店の内、約2割の店舗で栄養指導を実施。鹿島田の店舗でも管理栄養士が職能を発揮している。



小室貴之 大会長

NPO法人日本ホスピス・在宅ケア研究会（神戸市）は8月29日

「第23回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会in横浜」をパシフィコ横浜会議センターで開催した。関東での開催は2009年の千葉県以来。医療・介護従事者、大学教授・有識者、市民など約4000

人が参加した。今年初の全国大会は「共に創る 最期まで「すまい」で生きる社会」をテーマに、東京家が「自分で決める 人生の

人が参加した。今年初の全国大会は「共に創る 最期まで「すまい」で生きる社会」をテーマに、東京家が「自分で決める 人生の

人が参加した。今年初の全国大会は「共に創る 最期まで「すまい」で生きる社会」をテーマに、東京家が「自分で決める 人生の

人が参加した。今年初の全国大会は「共に創る 最期まで「すまい」で生きる社会」をテーマに、東京家が「自分で決める 人生の



▲2日間で4000人が参加した大会の様子

## “最後のすまい”テーマに熱い議論

### 6年ぶりに関東で開催

アルケア・グリーンケア・スターで発表した。ターミナルケア・多世代共 また、新たな取り組みと生・意思決定支援・遺族会として「在宅ホスピスを促進



▲口演・ポスター発表による一般演題にも注目が集まった

終い方、国立がんセンター・垣添忠生名誉総長が「人はがんとどう向き合うか？」と題して基調講演を行った。講演・シンポジウム・セミナーは、命・死・看取り・在宅緩和ケア・高齢者施設・多職種連携など幅広い内容を取り上げた。一般演題では末期が

次回大会は「いのちを受け止める町づくり」日本のホスピスケアが忘れてきたもの」をテーマに2017年2月4日～5日、福岡県久留米市で開催予定。